

# 自由民主党首都圏整備特別委員会中間提言 「首都圏機能の強化に向けて」

平成26年5月20日  
自由民主党政務調査会  
首都圏整備特別委員会

グローバル化が急速に進展し、各国が熾烈な生き残り競争を繰り広げる中、わが国大都市の国際競争力強化は日本の命運を握る最重要課題である。特に、成長著しいアジア諸国の中でわが国が勝ち抜くためには、わが国の中枢機能を担う首都圏の国際競争力の強化と、そのための施策の加速化が極めて重要である。

また、昨年9月7日に2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定し、現在、開催に向けた大会開催基本計画の策定等が進められている。

わが党は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催後も見据え、世界に冠たる首都圏を構築すべく、戦略的な首都圏整備を行っていく必要があると考える。

そのためにも、首都圏機能強化に資する各種施策を総動員し、首都圏機能の「潜在力」を「成長力」へと進化させ、地域経済の活性化、さらには日本経済全体の成長力強化を実現させることが急務である。

今般、首都圏整備特別委員会は、政府に対し、首都圏機能強化に向けた各種施策の迅速な実施を図るとともに、必要な予算を平成27年度予算において確保するよう、以下、提言する。

## I：安全・安心な生活環境の確保

首都圏機能の強化を図るに際し、住民生活の安全・安心を確保することは、最優先で取り組むべき課題の一つである。

首都直下地震、南海トラフ巨大地震の到来が指摘される中、わが国の中枢機能を担う首都圏の防災・減災対策は、首都圏のみならず、日本国全体にとっても極めて重要な課題である。災害発生時の被害を最小限に食い止め、国民の生命と財産を守り抜くためにも、戦略的な災害対策・減災対策を講ずる必要が有る。

また、わが国が世界に誇る治安の良さは、国民の暮らしの安全・安心を確保すると

同時に、世界からの投資・訪日呼び込む重要な要素の一つとなっている。首都圏においては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催も鑑み、より一層の治安・テロ対策の強化を図り、世界最高水準の住民生活の安全確保を実現する。

#### ○ 首都圏の防災機能の強化

- \* 首都圏における木造密集地域の解消、広域避難場所の整備、港湾施設や空港等の救援物資の受入れ拠点を中心とした公共施設、上下水道、建築物等の耐震化・液状化対策の実施
- \* 鉄道・首都高速道路をはじめとする交通インフラ及び各種インフラ施設等の総点検・老朽化対策の着実な実施
- \* 震災直後の自動車使用ルール、給水・トイレの提供体制、広域避難体制等の更なる改善と、これらのルール・体制等の住民への周知徹底、並びに家具の転倒、通電火災等を防止するための設備の普及促進
- \* 震災から迅速に復興するための事前の復興方針・復興計画の策定と復興計画の実現のために必要な資金の調達手段の確立
- \* 津波や高潮等に備えた水害対策

#### ○ 首都圏の治安対策の強化

- \* 機動隊や特殊部隊の配備、要人警護等、首都を管轄していることを理由として警視庁が受け持つ首都警察機能に対する国の支援の拡充
- \* 犯罪の抑止力となる商店街等における防犯カメラの効果的な設置を推進するための住民等の理解の促進と地方公共団体、民間事業者等への支援の充実強化
- \* 商工会、地域住民、地方公共団体等で構成される協議会における合意形成等を通じたボラードの設置、防犯性能の高い鍵の普及促進等、犯罪や迷惑行為の防止に効果的なまちづくりの推進

## II：未来に資する社会資本の整備

日常生活の利便性の向上を実現し、経済活動の一層の活性化を図るためにも、包括的な首都圏の交通・物流ネットワークの整備は極めて重要な「未来への投資」であると考えられる。

これまで、国土の均衡ある発展という流れの中、相対的に整備が遅れてきた首都圏

において、今後、道路交通網の整備をはじめとした交通インフラの整備を進め、渋滞の緩和等による人流・物流の円滑化を図り、魅力ある首都圏を実現する。

また、日本の地理的優位性を鑑み、アジアの玄関口機能、アジアのハブ機能としての首都圏空港・首都圏港湾の整備を推進し、MICEの誘致等にも取り組む中で、日本経済の成長を牽引する戦略的基盤を構築する。

#### ○首都圏の道路・交通網整備

- \* 渋滞緩和と利便性向上のため、外環・圏央道をはじめとした首都圏道路網の整備促進とボトルネック箇所への集中的対策
- \* 公共優先、弱者優先となる超高齢化社会の到来を踏まえ、車いす、ベビーカーを最優先とするなど、道路交通における優先順位の明確化、並びにバリアフリー化、無電柱化、緑化等による安全で快適な通行空間の確保
- \* 生活道路における歩行者や子供の安全、安心を確保するための時速30キロメートル以下の速度規制ゾーンの拡大と速度規制に応じた道路の整備
- \* 公道において、自転車を安全・安心に使いやすい環境を整えるための信号システム・交通規制の見直しの検討
- \* しまなみ海道のような魅力あるサイクリングロードの実現のため、首都圏における統一した自転車道・自転車走行レーン等の整備
- \* 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催、及びその後も見据えた包括的な交通ネットワークの整備、標識の多言語化、並びに高品質で合理的な交通サービスの実現に向け、東京都等の自治体、国、運輸事業者、自動車メーカー、大学等が結集し、総力を挙げた交通施策実現に向けた検討の場の設置
- \* ITS（高度道路交通システム）を活用した事故時や災害時における円滑な交通誘導、料金施策等による交通量の最適化など、三環状九放射の道路整備で形成された多重性のある道路ネットワークマネジメントの高度化
- \* 首都圏の鉄道網を生かすための輸送力の強化、並びに相互乗り入れや連続立体交差等による利便性向上の促進
- \* 鉄道の案内標識の多言語化等の国際化対応、バリアフリー等の鉄道駅空間の改善のほか、鉄道の安全・遅延対策としての改良工事の迅速な実施

#### ○首都圏空港の機能強化

- \* 訪日外国人3000万人実現に向けた首都圏空港インフラのフル活用の実現
- \* 羽田空港と成田空港の一体的な運用の強化、並びに地方空港と首都圏空港間の

#### ネットワークの充実・強化

- \*首都圏空港の発着枠拡大に向け、周辺住民にも配慮しつつ、都市部の上空通過を含む羽田空港の空路及び空域制限の見直し、成田空港の運用時間の緩和、滑走路の増設及び新ターミナルエリアの整備、横田飛行場の空域返還・軍民共用の推進等、一体的な施策の実施
- \*都心直結線や新幹線等の整備による地方都市・都心と羽田空港・成田空港間との鉄道整備、首都圏空港間のバス路線の機能強化、バス専用レーンの整備やBRT（バス高速輸送システム）の活用、新空港線整備等による空港アクセスの利便性向上、並びに早朝・深夜便に対応する空港アクセスの確保を図る等、総合的な施策の実施
- \*新交通システム等による空港ターミナル間移動の利便性の向上、外国人乗り継ぎ旅客のための利便性・快適性向上策の実施、ユニバーサルデザイン、食事の多様化・洗面所の近代化・祈祷室の設置、公衆無線LAN環境の整備拡大等、多様なニーズに対応したターミナル施設の整備
- \*羽田空港隣接地の最大限の利活用、並びに政府の成長戦略実現の「最前線基地」としての機能を担わせる戦略的なインフラ整備

#### ○首都圏港湾の機能強化

- \*国、地方自治体、民間が一緒になった新しい概念のポートオーソリティの創設
- \*港湾荷役オペレーションの一体的な運営、コンテナターミナルの自動化等による港湾機能の強化
- \*港湾の後背地を中心とした総合的な交通体系の整備の推進を図り、信頼性の高い日本の港湾オペレーションの更なる高度化を実現
- \*欧州便で週3便、米州便で毎日の頻度となるコンテナ基幹航路の早期実現のため、日本全国のコンテナの貨物を京浜港と阪神港に集中させる「集貨」の推進、及び輸出産業を振興する産業政策の実施により貨物を創る「創貨」の推進を図り、必要な港湾施設の重点的な整備を実施
- \*海外港湾の機能停止リスク等を避ける危機管理の観点から、海外港湾で行われるトランシップメントに依存しないわが国港湾の機能強化

### Ⅲ：暮らしを守る「農」と「緑」との共生

首都圏住民への安全・安心な食料供給を確保し、わが国が世界に誇る自然美を守るためにも、首都圏における農業の強化、並びに自然環境の保全は、不断の整備・推進が必要である。

首都圏住民への新鮮な農産物の供給、農業体験、さらには災害時のオープンスペースの提供等、農業が担う多様な機能を鑑み、そのより一層の活性化が必要である。

また、首都圏における自然環境の整備を推進し、自然との共生の中で身近な日本の自然美に触れる機会を醸成し、豊かな国民生活を実現させる事が重要であるとする。

#### ○首都圏の都市農業の強化

＊都市農業の振興・都市農地の有効活用を目的とした「都市農業・都市農地基本法（仮称）」の早期制定

＊都市農地の減少抑止に大きく貢献する相続税納税猶予制度の納税免除の要件である終身営農の条件に、一定の場合に農地の貸借も認める等の運用の改善

＊農地中間管理機構の借り受ける対象農地への市街化区域内農地の追加と優良な都市農地と意欲の高い営農者とのマッチングの推進

#### ○首都圏の自然環境の整備

＊首都圏住民への水の供給を確保するため、水源地保全のための施策の推進

＊都市住民が豊かな自然環境に触れられるような、緑の質を重視した都市緑化の推進と都市公園の整備

＊生物多様性の確保の観点から、新たな「首都圏における水と緑のネットワークのランドデザイン」策定による「生態系ネットワーク」形成の着実な推進

以 上